

## 三度目にして知る ヨハネ 21:1-14

2026. 4. 19、丘の上、NO. 7  
春日部福音自由教会 山田豊

先週4月5日は、3会堂合同の復活祭礼拝をお捧げいたしました。オンラインで礼拝された方もあったことでしょう。危ぶまれていた天候も守られて、各模擬店とも盛況だったようです。子供たちのお楽しみプログラムも随分盛り上がったようで、外にいてバンドの音と元気な子供たちの声が良く聞こえてきました。

さて、この礼拝に集われた皆様は、どのような思いでそこにおられたのでしょうか。自ら重い病を負っている人や、親や兄弟の介護、看護をしている方々があることに思いが向きました。死の陰の谷を歩いているような状況の中で、主イエスの復活の物語は、私たちに、何を語ってくれるのでしょうか、またどのように受け止めればよいのでしょうか。

本日の物語は、ペテロの「私は漁に行く」という言葉に促され、一緒にガリラヤに行った弟子たちのお話です。役者さんは、たった一言のセリフでも、そこに全身全霊を傾けて、ふさわしい言葉を発するそうです。あなたがペテロだとしたら、どんな調子でこの言葉を発したのでしょうか。

ガリラヤ湖畔に復活されたイエスが現れ、弟子たちに声を掛けます。夜通し網を降ろしていたのですが、何も取ることができず、食べるものがないことを知っておられたイエスは、炭火をおこし、魚とパンを用意しておられたのです。弟子たちは、最初それがイエスであるとはわかりませんでした。しかしイエスの言葉に従って舟の右側に網を打って引き上げたところ、大漁だったのです。このことを通して、声をかけた方は復活された主イエスであることが分かり、驚き、舟から上がると、共に朝の食卓を囲んだのでした。復活後のBBQです。丘の上の復活の庭に、卵型のBBQコントがあるのは、このお話から取られています。

本日の聖書箇所は、黙想すべき言葉が満ちているところです。一つのポイントは、復活されたイエスとこれまで二度お会いしていたのに、いま目の前にいるお方がイエスであると気づくまでに、時間がかかったことです。夜明けの頃ですから、暗がりでは人を判別することが難しかったのかもしれない。意気消沈していたかもしれませんが、心の片隅に、ガリラヤに行けばまたイエスに会える、と思っていたのではないのでしょうか。イエスがかつて語られた言葉を思い起こしてガリラヤに向かった、そのことの故に復活の主に出会うことができました。

3度目の顕現で、ようやくイエスがともにいてくださることを知ったのでした。

## 引用聖句

ヨハネ 20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

ヨハネ 20:26 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

マタイ 26:32 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

マタイ 28:7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」

マルコ 14:28 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

マルコ 16:7 さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』と。」

## 新聖歌 453 番、3 節

心のガリラヤ湖に 嵐はすさめど  
主イエスのひと言葉は 平和をもたらす  
七つの悪の霊に 捕らわれし者も  
力のある言葉に 助けいだされぬ  
伸べたもう手にすがり 我も安き受けん  
とこしえまで君を 我の神とせん

ガリラヤ湖(ガリラヤこ、ヘブライ語: ים כּוּנַתְרַת、アラビア語: بحيرة طبريا)は、イスラエル北部地区に位置する、国内最大の湖である。

周囲 53 キロメートル、南北に 21 キロメートル、東西に 13 キロメートルの大きさであり、166 平方キロメートルの面積を持つ。最大深度は 43m。海拔マイナス 213m で、湖としては死海につぐ海拔の低さを誇る。ローマ帝国統治時代に用いられた呼び名に由来する「ティベリアス湖」とも呼ばれる。イエス・キリストゆかりの場所としても有名。

伝統的には「ガリラヤの海」など「海」と呼ばれることもあったが、純粋な淡水湖である。ガリラヤ湖という名前は湖があるガリラヤ地方に由来している。近代ヘブライ語では「ヤム・キネレット」(ים כּוּנַתְרַת or ים כּוּנַתְרַת) と呼ばれる。これは湖が豎琴に似ているためで、豎琴を意味する「キノル」に由来している。新約聖書の『ルカによる福音書』5:1 では「ゲネサレト湖」とも

呼ばれている。ゲネサレトとは湖の西側にある平原地帯の名であった。アラビア語では「ティベリアス湖」という意味のアラビア語に置き換えた「ブハイレット・タバリヤ」(بحيرة طبريا)という名前と呼ばれた。旧約聖書の『民数記』34:11、『ヨシュア記』13:27 では『キネレト湖』とも呼ばれている。

ガリラヤ湖は谷底にあり、東西を高地に挟まれた形になっているため、しばしば強烈な風が湖に吹きつけてくる。福音書で、ガリラヤ湖に出たイエスが嵐をしずめる場面があるのはそのような理由による。また、ガリラヤ湖では多くの魚がとれるが、特にティラピアという魚がよく取れる。この魚は、使徒ペトロがガリラヤ湖の漁師であったという福音書の記述にちなんで「聖ペトロの魚」とも呼ばれる。(ウキペディア)

### 古代ガリラヤ湖の漁の主な特徴

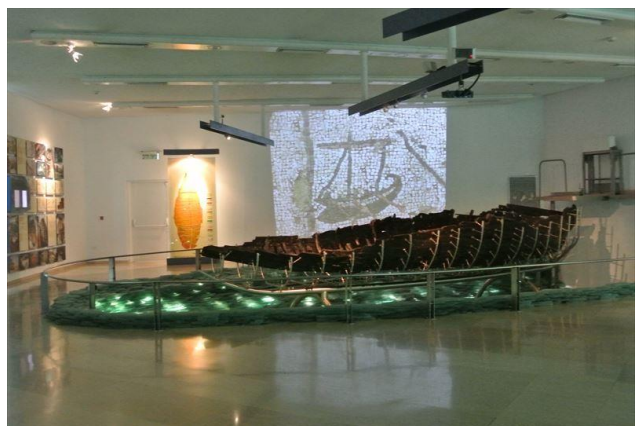
主な魚種と「聖ペトロの魚」: 古代からティラピア(ナイルティラピア)が主流であり、これは「セントピーターズフィッシュ」として知られ、開いて焼いたり揚げたりして食された。現在では、観光客にも食され、私も日本から醤油をもって行き、おいしくいただいた。

漁法: 舟から網を投げ入れる投げ網(キャストネット)や、2隻の舟で網を引く引き網(ドラグネット)が一般的だった。153匹の大量だった、と書かれているが、と網にこれだけの漁と重さの魚が捕れることは、ふつうはなかったであろう。夜通しかけていたのは、刺し網漁だったかもしれない。

加工産業: ベツサイダやマグダラ(「魚の加工の町」の意)など、湖畔の町で魚を塩漬けや干物にし、イスラエル各地に流通させていた。

社会・経済的背景: ローマ支配下の1世紀には、漁業は自由企業ではなく、国家や有力者によって規制・管理されており、漁師は漁獲の25~40%を税として納めることもあった。

**イエスの舟:** 1986年に発掘された紀元前1世紀頃の舟(ジーザス・ボート)は、全長約8m、幅2.3mで、古代の漁がこのサイズの舟で行われていたことを示している。ジーザスボートは、ガリラヤ湖畔の、イーガル・アロン・センターに展示されている。イエスが乗った船かどうかは不明であるが、同時



代の船であるとのことで、イエスとその弟子たちは同じような船に乗ったのであろう。昔イスラエルツアーで行ったときは、特別な液体の中に入れられていたが、今は館内でいろいろな資料と共に見ることができる。